

決勝リーグ戦全員出場ルール&投球規定

2017年4月1日

北関東連盟
競技部

適用大会

- インターメディアット北関東連盟大会決勝リーグ戦
- 全日本選手権北関東連盟大会決勝リーグ戦

I 全員出場義務

- 試合当日ベンチ入りした選手は全員試合に出場しなければならない。
 - 13名以上の選手が試合に参加している場合、当日の名簿上の全選手が、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
 - 12名以下の選手で試合に参加している場合は、当日の名簿上の全選手が、守備において最低6つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
- 監督は本規定を満たすことに責任を持たなければならない。この規則による全員出場義務規定を満たさないことは講義の基礎となる。メンバー表に記載された選手の一人以上がこの条件を満たさず抗議されるか大会本部に伝えられた場合、大会本部は監督の続く2試合への出場停止を命じる。さらなるペナルティーもある。それには、没収試合やチームや監督、コーチの資格剥奪も含まれる。
- すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

II 選手交代/再出場

- 負傷して退場した選手は出場条件を満たさなくても良い。
- 選手の病気、負傷、退場で9人の選手を揃えられなくなった場合は、控え選手の中から交代選手を指名する。ただし、その人選は相手チームの監督が行うものとする。退場になった選手はこの再出場の対象とはできない。
- 先発選手は1打席または連続3アウトの守備をしなくても交代できる。
- 選手交代で退いた選手は、元の打順で再出場することになる。
- 交代で初めて試合に出場した選手は、全員出場義務を完了するまで交代できない。
- 投手が全員出場義務を完了しており、打者の時に交代選手が出場した場合、実際に降板したのであれば一度に限り投手として再出場できる。
- 全選手が再出場できる。また再出場回数に制限は設けない。(全選手が何回でも再出場できる。)
- スペシャルピンチランナー
インニングに1回、1試合に2回に限り、攻撃側選手に対してその時点で打撃順に加わっていない選手を使用してスペシャルピンチランナーを起用することができる。スペシャルピンチランナーは1人の選手に対し1回のみ使用できる。スペシャルピンチランナーに交代された選手はラインナップから外れるわけではない。スペシャルピンチランナーがそのまま残った場合は選手交代したものとみなされ、打撃順に入っている間はスペシャルピンチランナーとして起用することはできない。しかしながら、その選手がさらに他の選手と交代した場合やその他の打撃順に入っていない選手は再度スペシャルピンチランナーに起用することができる。

III 投球規定

- 降板した投手はその試合では投手に戻れない。
- 投球数を制限する。
- 年齢別投球数 11歳～12歳は1日85球までとする。
※例外 次に該当する場合は投球制限に達しても投げ続けてよい。
 - その打者が出塁するか、またはアウトになるまで。
 - 第3アウトが成立し、そのインニングが終了するまで。
- 休息日
 - 必要な休息日は次の通り。
 - ・1日に66球以上の投球をした場合、4日間の休息が必要。
 - ・1日に51～65球の投球をした場合、3日間の休息が必要。
 - ・1日に36～50球の投球をした場合、2日間の休息が必要。
 - ・1日に21～35球の投球をした場合、1日間の休息が必要。
 - ・1日に1～20球の投球をした場合、休息日は必要ない。
 - 選手は1日に2試合以上の投球はできない。**
 - 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。
 - 試合で4インニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。
(注)4インニングはアウト数(12)ではなく、守備についたインニング数とする。
 - 監督から“故意四球”を球審に伝えた場合、打者は1塁へ進む。**
(投球はしないが、投球数には4が加えられる)